



経験2～3年を有する看護師のクリニカルリーズニング向上支援プログラムの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-08 キーワード (Ja): キーワード (En): clinical reasoning, nurses with two to three years of work experience, Kolb's experiential learning model, development of a program 作成者: 岡田, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00017867

要約

【目的】 経験 2～3 年を有する看護師を対象としたクリニカルリーズニング向上支援プログラムを開発し、その効果を評価することである。

【概念枠組み】 クリニカルリーズニングを学ぶプログラムを、文献的考察、Kolb (1984) の経験学習モデルに沿って検討した。

【予備研究 1】 文献検討にもとづくプログラム (案) の作成

方法: 教育プログラム、院内研修、看護師研修をキーワードに、看護師のプログラム開発に関する文献を検索した。データベースは、医学中央雑誌、CiNii Articles、CINAHL with Full Text、CiNii Books、ソースタイプは、学会誌、学術専門誌、書籍とした。

結果: 教育方法、評価の考え方等が書かれた部分を参考に、プログラム (案) を作成した。学習は経験学習サイクルを繰り返すことによって強化されることから、2 回の研修とし、変化する状況下で患者を理解し実践することができるシミュレーションという手法を用いた。

【予備研究 2】 専門家会議によるプログラム (案) の内容妥当性、実用性、有益性の検討

方法: 院内教育責任者の役割を担った経験を有する看護師、専門看護師として 5 年以上の経験を有する看護師計 5 名を研究参加者とし、フォーカスグループディスカッションを行った。研究参加者が配布資料に記載した内容、研究者が観察し記録した内容、IC レコーダーに録音した内容を質的に分析した。

結果: シミュレーションシナリオの内容に矛盾はなく有益性が確認できた。実用性と有益性を高めるために、患者の背景や心理・社会的側面の情報を追加し、事前学習内容や当日の役割を具体的に示し、ワークシートの各項目の修正を行った。

【予備研究 3】 パイロットスタディによるプログラム (案) の実行可能性の検証

方法: 近畿圏内の総合病院に勤務する経験 2～3 年を有する看護師 3 名にプログラムを実施し、2 回のグループインタビューと 4 回の効果判定尺度による調査を行った。

結果: 説明のわかりやすさ、シミュレーションの受けやすさ、クリニカルリーズニングの理解について肯定的な意見が得られた。ワークシートや調査票の記載に時間を要するとの意見があり、記載時間と調査内容を検討した。1 回目研修後にクリニカルリーズニングを臨床で実践するよう促す文章をシミュレーションシナリオに記載した。

【本研究】 プログラムの開発と効果の評価

方法: 近畿圏内の総合病院に勤務する経験 2～3 年を有する看護師 62 名をマッチング法にて 8～12 名のグループにわけ、グループごとに乱数表を用いて介入群とコントロール群に

割り付けて実施した。調査票は、クリニカルリーズニングの帰結因子として【看護師の問題解決行動自己評価尺度】、属性因子として【看護実践における行為の振り返り尺度】、【成人用メタ認知尺度】、【ラサター臨床判断ルーブリック】を用いた。また基本属性を調査した。データ収集期間は2021年9月～2022年4月であった。

結果: 最終参加者は57名（介入群33名、コントロール群24名）で、独立性の検定を行い、両群の均質性を確認した。正規性が確認されなかったため、Mann-WhitneyのU検定を行った。群間比較において、看護師の問題解決行動自己評価尺度では、実施前と終了後の得点差で、【Ⅲ.問題の優先順位を見極め患者の要望に柔軟に応じる】（ $U=241.5, p=0.012$ ）、【Ⅴ.患者が拒絶する援助を受け入れられるよう説得する】（ $U=226.0, p=0.006$ ）、【Ⅶ.個別状況に応じて援助を工夫する】（ $U=214.5, p=0.003$ ）、【Ⅸ.援助の効果を判定して支援する】（ $U=221.0, p=0.004$ ）に有意差がみられた。看護実践における行為の振り返り尺度では、実施前と終了後の得点差で、第Ⅰ因子【患者・家族の意向の吟味】（ $U=238.0, p=0.010$ ）、第Ⅱ因子【看護師の役割の認識】（ $U=262.5, p=0.029$ ）、第Ⅴ因子【治療の状況の把握】（ $U=189.5, p=0.001$ ）に有意差がみられた。成人用メタ認知尺度では、実施前と終了後の得点差で、【モニタリング】（ $U=161.0, p<0.001$ ）、【コントロール】（ $U=164.0, p<0.001$ ）に有意差がみられた。ラサター臨床判断ルーブリックでは、実施前と終了後の得点差で、【気づき】（ $U=246.0, p=0.013$ ）で有意差がみられた。研修満足度は介入群が優位に高かった。

【倫理的配慮】 予備研究2、3は京都橘大学研究倫理委員会の承認（承認番号19-35、19-58）、本研究は大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認（承認番号2021-18）を得て実施した。

【考察】 測定指標の各時期における得点差の群間比較において有意差がみられたことから、本プログラムの有効性が示された。本プログラムは、学習の積み上げができる構成としたこと、ワークシートを用いた思考の整理と、自身の思考に焦点をあてた振り返りを促したことによって効果が高まったと言える。プログラムの課題として、他者評価といった観点からクリニカルリーズニングの評価方法を検討すること、チーム医療に関する内容を含めたシナリオを作成することがあげられた。

キーワード: クリニカルリーズニング、経験2～3年を有する看護師、

Kolbの経験学習モデル、プログラム開発

Key words: clinical reasoning, nurses with two to three years of work experience,

Kolb's experiential learning model, development of a program